

生命の安全教育の大切さ：知的・発達障害をもつ中学生に焦点をあてて

須賀 朋子

酪農学園大学

The Importance of Life Safety Education: A Focus on Junior High School Students with Intellectual or Developmental Disabilities

Tomoko Suga

Rakuno Gakuen University

抄録

2020年6月の性犯罪・性暴力対策強化のための関係府省会議決定に基づき、文部科学省が有識者の意見を踏まえて、「生命の安全教育」のパワーポイントを、【幼児期用】、【小学校低・中学年用】、【小学校高学年用】、【中学生用】、【高校生用】、【高校卒業直前、大学、一般用】の6種類を作成してホームページ上に公開した。特別な支援を必要とする児童生徒には、小・中学校向けの教材を活用しつつ、児童生徒の障害の状態や特性、および発達の状態等に応じた個別指導を実施するように記されている。

そこで本研究では、特別支援のなかでも、知的・発達に障害をもつ中学生に「生命の安全教育」を実施することの重要性を取り上げた。

米国では、知的・発達障害をもつ生徒が、性犯罪・性暴力に巻き込まれる確率が高い理由は、性教育を受けていないことが原因になっていることを報告している⁸⁾。また、英国では、知的・発達障害者が、性暴力の加害者になり、矯正施設退所後に再犯を繰り返すことが多いため、性暴力プログラムを開発している。このプログラムを日本で試行する必要性の指摘もある⁴⁾。

日本でも知的・発達障害をもつ人が、性犯罪・性暴力の被害者や加害者になることが多い点を指摘した研究⁷⁾はみられるが、予防をするためのプログラムや教材まではみられない。

これらのことを踏まえ、新しく開発された文部科学省の「生命の安全教育」を、義務教育の中学卒業前までに、知的・発達障害がある生徒に実施することは重要である。

キーワード：生命の安全教育、知的・発達障害、中学生

Key words：Life Safety Education, Intellectual or Developmental Disabilities, Junior High School Students

1. はじめに

生命の安全教育は、「性犯罪・性暴力対策強化の方針」（2020年6月11日性犯罪・性暴力対策強化のための関係府省会議決定）に基づき、子どもたちが性犯罪、性暴力の当事者にならないよう、内閣府と文部科学省が連携して立ち上げたものである¹⁾。近年、子どもたちが性暴力の加害者、被害者になる事件が続くなか、これらを予防するためには、教育場で「生命の安全教育」を行うことが効果的であろうと判断し、有識者の意見も踏まえて、文部科学省がパワーポイント教材と指導の手引きを作成し、

ホームページに公開をした¹⁾。「生命の安全教育教材」のパワーポイント資料は、【幼児期用】、【小学校低・中学年用】、【小学校高学年用】、【中学生用】、【高校生用】、【高校卒業直前、大学、一般用】の6種類が用意されている。これらのパワーポイント資料をダウンロードして、閲覧をしていただきたい¹⁾。発達段階を考慮して作成され、使用するときには、これらのパワーポイント資料を土台として、改良を加えながら使用ができるようになっている。教員が授業を行いやすいように改良ができるため、非常に有益な教材である。文部科学省は、2021年度にパイロット授業を行うための教育機関の募集を始

め、2023年度に全国の小・中・高校での実施を計画している²⁾。

知的・発達障害をもつ児童生徒が学ぶ、特別支援学校、特別支援学級向けの教材は作成されておらず、指導の手引き（特別支援教育）³⁾には、「障害のある児童生徒に対する指導に当たっては、障害の状態等を考慮し、指導内容や指導方法を工夫することが必要である」と記されている。要するに、通常学級の児童生徒向けの教材を、特別支援を担当する教員が、児童生徒の実態に応じて、教材を利用して教えることとなっているため、特別支援を担当する教員は、通常学級の教員以上に、教材利用の工夫や配慮が必要になってくる。

先行研究には知的・発達障害者が、性暴力の加害者になり、矯正施設退所後に再犯を繰り返すことも多く、英国の知的・発達障害者向けの性暴力プログラム（SOTEC-ID）を日本で試行する必要性の指摘もある⁴⁾。知的・発達障害者が、加害者になってしまう前の段階で、義務教育の中学生までに、「生命の安全教育」を実施したい。

そこで、本稿では、知的・発達障害をもつ中学生への指導で、性暴力の当事者にならないようにするためには、わかりやすく、丁寧な指導を必要とすることを提案していくことを目的とする。

2. 日本と米国の知的障害・発達障害をもつ生徒への性被害、性暴力予防の先行研究

特別支援学校中学部学習指導要領⁵⁾には、第7章 自立活動 内容「3. 人間関係の形成 ①他者とのかかわりの基礎に関すること、②他者の意図や感情の理解に関すること、③自己の理解と行動調整に関すること、④集団への参加の基礎に関すること」が記されている。「生命の安全教育」は、自分と相手を守るための距離感についての説明から導入されているため、①の「他者とのかかわりの基礎に関すること」を学ぶための、自立活動の教材として使用することが可能であろう。

日本では、知的障害児への性教育の受け止め方が、少しずつ実施する方向へと動きは始めているが、教員や保護者等の「寝た子を起こすな」という考え方は、未だに少なくない⁶⁾。特別支援学校の教員へのインタビュー調査では、「指導内容や方法が確立されていないため難しい」、性教育に興味関心はあるが、管理職、同僚、保護者からの非難に対す

る不安がある」、「保護者からの積極的な要望がなければ難しい」などの消極的な意見がみられている⁶⁾。

他の研究では、知的・発達障害をもつ生徒に実際に起きていることに関する調査結果が報告されている⁷⁾。調査対象の高等部では、「駅の障害者トイレで無理やり性行為」、「家で無理やり裸にされた」、「殴る蹴るの後、性行為を強要された」、「裸の写真を送れと男子生徒に命令されて女子生徒が送ってしまった」が挙げられている。同様に、調査対象となった中学部では、「上級生が、校内で下級生に性行為が起きている」ことが挙げられている。この調査結果からも知的・発達障害をもつ生徒への、性に関する教育は必要だろう。

米国では知的・発達障害がある人の性被害の割合は、子どもで44%に上り、その加害者は、本人の身近にいる人が多いと指摘されている。知的・発達障害がある人の被害の割合が高い理由は、知能が低いことで、性教育を受ける機会が損なわれてしまっていることが挙げられている⁸⁾。また、米国では、知的・発達障害のある子どもに、性交渉を禁止するだけの禁欲的な教育は、10代の妊娠と性感染症の予防に効果が無く、実際に、禁欲的な教育のみを行っている州では、10代の妊娠と出産が、最も多いことを報告している。反対に、包括的な性教育、いわゆる、体の仕組み、性の役割、お互いの尊重、関係性などについてデザインされている教育を行った州では、10代の妊娠が低いことが報告されている⁹⁾。知的障害の子どもをもつ親30名と、定型発達の子どもの親32名を対象にした調査によると、性教育を自分の子どもが受けることには、すべての保護者が賛成の意を示したが、定型発達の子どもの親に比べて、知的障害の子どもをもつ親は、自分の子どもが性被害を受ける可能性が低いと思っていることを報告している⁷⁾。

2021年に文部科学省が提案した、「生命の安全教育」は、内容的に、米国の包括的な性教育に類似している。米国で包括的な性教育を行った州で、知的・発達障害をもつ10代の妊娠が低くなったことを考えて、日本でも、知的・発達障害をもつ生徒に、個別の障害の状況に配慮しながら、「生命の安全教育」の授業を行うことを提案したい。

3. 文部科学省「生命の安全教育」の全体像

「生命の安全教育」の指導の手引きには、幼児期

から、一般までの各段階の共通の趣旨として、「性犯罪・性暴力は、被害者の尊厳を著しく踏みにじる行為であり、その心身に長期にわたり重大な悪影響を及ぼすものであることから、その根絶に向けた取り組みや被害者支援を強化していく必要がある。性犯罪・性暴力の根絶は待ったなしの課題であり、その根絶に向けて、誰もが性犯罪・性暴力の加害者にも、被害者にも、傍観者にもならないよう、社会全体でこの問題に取り組む必要がある。」と記されている¹⁰⁾。

「生命の安全教育」の全体像¹⁰⁾を（表1）に、「生命の安全教育（中学校）」の詳細な内容を（表2）に示すこととする。

表1 生命の安全教育の全体像

【幼児期】	
1.	「水着で隠れる部分」は自分だけの大切なところ
2.	相手の大切なところを見たり、触ったりしない
3.	嫌いな触られ方をした場合の対応
【小学校】	
1.	「水で隠れる部分」は自分だけの大切なところ
2.	相手の大切なところを見たり、触ったりしない
3.	嫌いな触られ方をした場合の対応
4.	SNSを使うときに気をつけること（高学年）
【中学校】	
1.	自分と相手を守る「距離感」について
2.	性暴力とは何か（デートDV、SNSを通じた被害の例示）
3.	性暴力被害にあった場合の対応
【高校】	
1.	自分と相手を守る「距離感」について
2.	性暴力とは何か（デートDV、SNSを通じた被害、セクシャルハラスメントの例示）
3.	2次被害について
4.	性暴力被害に遭った場合の対応
【高校卒業前、大学、一般】	
1.	性暴力の例
2.	身近な被害実態
3.	性暴力が起きないようにするためのポイント
4.	性暴力被害に遭った場合の対応・相談先
【特別支援教育】	
小学校・中学校向けの教材を活用しつつ、児童生徒等の障害の状態や特性、および発達の状態等に応じた個別指導の実施	

表2 生命の安全教育（中学生用）の詳細内容

1. 大切な心と体を守るために～よりよい人間関係とは～
2. 自分と相手を守るもの、体の距離感と心の距離感
自分の距離感と相手の距離感
3. 性暴力とは？～体に触る性暴力と体に触らない性暴力～
4. 性暴力の例：デートDV、SNS等を通じた被害
5. 性暴力に遭うと起こること～体に起こることと心に起こること～
6. 性暴力はどうして起こるの？～性暴力はお互いの関係が対等でない場面でおこりやすくなります～
7. 性暴力が起きないようにするためには～自分を大切に
する、相手を大切に
する、暴力をゆるさない～
8. 性暴力の被害にあったら？
9. 友達が性暴力の被害にあったら？
10. 友達の性暴力（加害）に気づいたら？
11. 補足資料：事例検討
12. ひとりで抱え込まずに話してみよう（内閣府の相談電話が掲載）

4. 「生命の安全教育（中学校）」を用いて、知的・発達障害をもつ中学生に教える方法

先行研究から⁷⁾ 知的・発達障害をもつ生徒が、性暴力、性被害に巻き込まれることは、特別支援学校中学部でもみられるが、特別支援学校高等部になるとかなり多くなることから、未然に防ぐためにも、特別支援学校中学部のうちに、「生命の安全教育」を利用して丁寧に伝えていきたい。

知的・発達障害をもつ中学生への指導は、個別に行うことが望ましく³⁾、1人1人の障害の重さが異なるため、障害の状態に応じて分量も変え、所要時間も変えていく必要がある。障害の状態の程度差があっても、図1～図6までの内容は、性暴力の例がわかりやすく説明されているため、知的・発達障害がある中学生に教えておきたい内容である。体の距離感と心の距離感（図1）を示しながら、1対1で話し合うのが良い。自分の距離感と相手の距離感（図2）を示し、説明を行ってから、生徒の気持ちを聞いていきたい。体に触る性暴力と体に触らない性暴力（図3）の説明を行った後、生徒から自分自身の話がでてくことも考えられる。デートDV（図4）、SNS等を通じた被害（図5）も、丁寧に説明を行った後に、生徒が自分の経験を話すかもしれない。そのようなときは、時間をかけて聞いてあげてほしい。性暴力に遭うと起きること（図6）のようなことが起きたときは、相談をしてほしいことを伝えていきたい。これらの図1～図6は、1対1で、1回の授業でスライド1枚のペースで実施をす

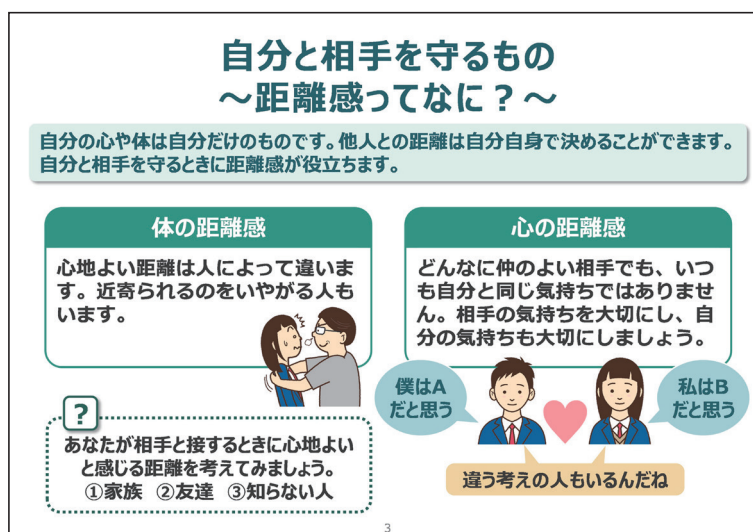


図1 体の距離感と心の距離感

(出典：文部科学省HP https://www.mext.go.jp/a_menu/danjo/anzen/index.html)

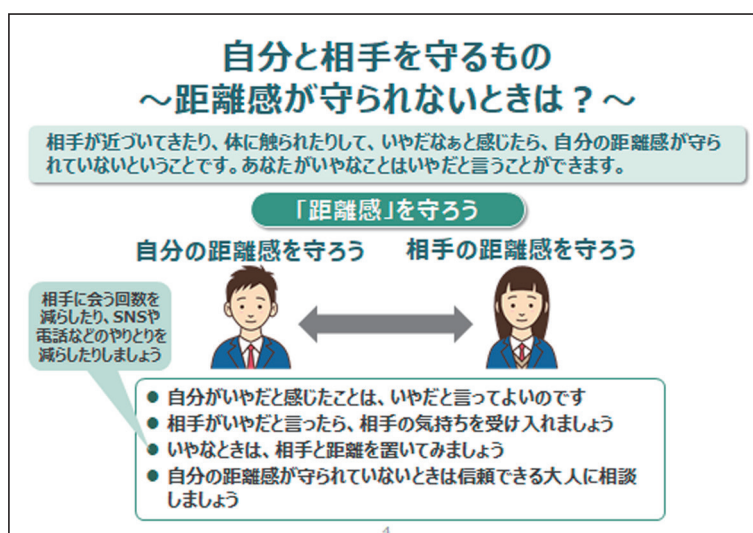


図2 自分の距離感と相手の距離感

(出典：文部科学省HP https://www.mext.go.jp/a_menu/danjo/anzen/index.html)

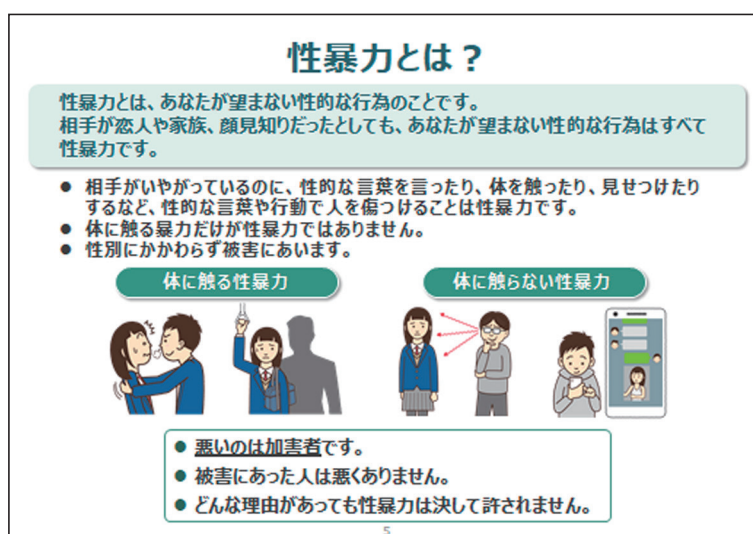


図3 体に触る性暴力と体に触らない性暴力

(出典：文部科学省HP https://www.mext.go.jp/a_menu/danjo/anzen/index.html)



図4 性暴力の例：デートDV

(出典：文部科学省HP https://www.mext.go.jp/a_menu/danjo/anzen/index.html)



図5 SNS等を通じた被害

(出典：文部科学省HP https://www.mext.go.jp/a_menu/danjo/anzen/index.html)

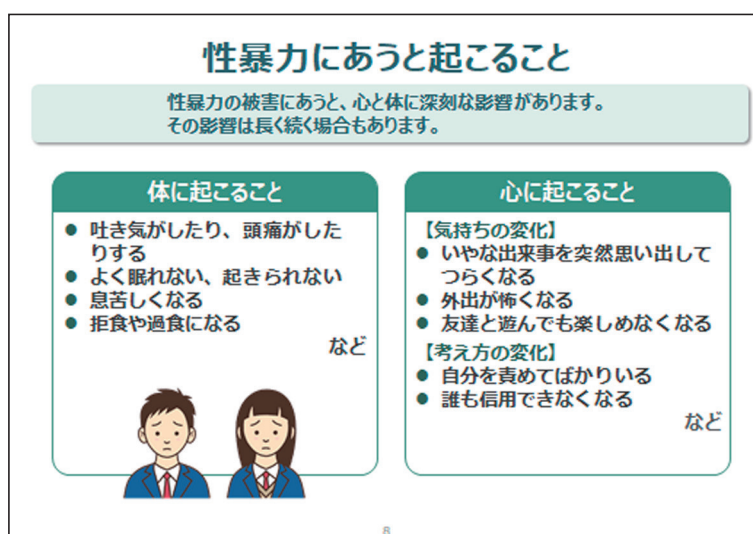


図6 性暴力にあうと起こること

(出典：文部科学省HP https://www.mext.go.jp/a_menu/danjo/anzen/index.html)

れば、生徒が自分の意見や気持ちを話しやすくなるだろう。

5. 総括

今まで日本で行われていた、性交渉を防止するためだけの禁欲的な性教育は、保護者や教員から受け入れてもらえなかったことが多いが⁶⁾、今回の文部科学省から提示された、「生命の安全教育」は、米国で行われている、包括的な性教育プログラムのくぐりと言える。理由として、中学校用では、導入で「より良い関係とは」、「体の距離感と心の距離感」の説明から入り、性暴力の具体的な内容である「体に触る性暴力と、体に触らない性暴力」、「性暴力の例」が説明されていることが挙げられる。また、文部科学省の「生命の安全教育」は、被害者にならないための視点だけでなく、「このようなことを行ったら、加害者になってしまうよ」というメッセージも伝わる内容である。そこで、知的・発達障害をもつ中学生が、被害者にも加害者にもならないためにも、義務教育の最終段階である中学生のうちに「生命の安全教育」を授業で行う必要がある。

謝 辞

本研究は科研費若手研究18K18294で実施いたしました。

COI

論文投稿に関連し、開示すべきCOI関係にある企業などはない。

引用文献

- 1) 文部科学省. 性犯罪・性暴力対策の強化について. 生命の安全教育.
https://www.mext.go.jp/a_menu/danjo/anzen/index.html (アクセス2021/6/18)
- 2) 文部科学省. 子供を性犯罪等の当事者にしないための安全教育推進事業.
https://www.mext.go.jp/content/20210406-mxt_kyousei02-000014005_3.pdf (アクセス2021/6/19)
- 3) 文部科学省. 生命の安全教育指導の手引き.
https://www.mext.go.jp/content/20210416-mxt_kyousei02-000014005_7.pdf (アクセス2021/6/19)
- 4) 水藤昌彦. 知的障害のある性暴力行為者への治療的対応－英語イングランドにおけるSOTSEC-IDモデルの調査を中心に－. 山口県立大学学術情報. 2014 ; 7 : 65-77.
- 5) 文部科学省. 特別支援学校 幼稚部教育要領、小学部・中学部学習指導要領、平成29年4月告示. 海文堂出版、平成30年.
- 6) 原 恵美子. 知的障害児に対する特別支援学校における性教育実施の状況と、教諭と保護者の意識. 治療教育学研究 2010 ; 30 : 61-69.
- 7) 須賀朋子. 知的障害や発達障害をもつ高校生へのドメスティック・バイオレンス (DV) 予防教育の挑戦. 日本セーフティプロモーション学会誌. 2020 ; 13 (2) : 26-32.
- 8) Stein, S., Kohut, T., Dillenburg, K. The Importance of Sexuality Education for Children With and Without Intellectual Disabilities: What Parents Think. Sexuality and Disability. 2018 ; 36 : 141-148.
<https://link.springer.com/article/10.1007%2Fs11195-017-9513-9> (アクセス2021/6/20)
- 9) Carter, D. Comprehensive sex education for teens is more effective than abstinence. American Journal of Nursing. 2012 ; 112(3) : 15.
- 10) 文部科学省. 生命の安全教育について.
https://www.mext.go.jp/content/20210527-mxt_kyousei02-000014005_2.pdf (アクセス2021/6/22)